

# 高知、徳島に医療チーム 南海トラフ地震備え初訓練



## AMDAや総社市

南海トラフ地震に備え、国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市）は9日朝、発生時に甚大な被害が予想される高知、徳島両

県の沿岸部に医療チームを派遣する訓練を初めて実施。災害支援に関する連携協定を結ぶ総社、丸亀市など中四国の8市町と協力し、総社市を起点に陸路、海路、空路で現地に向か

医療チームの派遣訓練で総社市役所を出発するAMDAの車

い、所要時間などを確認した。

マグニチュード8・6の地震が発生、太平洋沿岸に大津波警報が発令され、AMDAが総社市と合同対策本部を設置したとの想定で午前8時半、医師らのチーム6人が車2台に分乗して同市を出発。瀬戸大橋やヘリコプター、海上タクシーを使う三つのルートで瀬戸内海を越え、協力自治体でスタッフと合流しながら最終地点の高知県黒潮町、徳島県美波町を目指した。

AMDAによると、訓練では活動拠点までの所要時間や衛星電話の通信状況、災害時に通行できない可能性のあるルートのチェックを行うという。

この日、総社市役所では出発式があり、約20人が参加。あいさつでAMDAグ

ループの菅波茂代表は「災害派遣の輸送、通信手段を事前に確認し、問題点を洗い出したい」と述べた。

（大橋洋平）